



株式会社浅沼組

2022年3月期第3四半期決算説明会

2022年2月18日

イベント概要

[企業名]	株式会社浅沼組
[企業 ID]	1852
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 3 月期第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2021 年度 第 3 四半期
[日程]	2022 年 2 月 18 日
[ページ数]	19
[時間]	13:30 – 13:59 (合計：29 分、登壇：19 分、質疑応答：10 分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 2 階 第 2 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	
[登壇者]	4 名 代表取締役 社長執行役員 浅沼 誠 (以下、浅沼) 代表取締役 専務執行役員 社長室長 山腰 守夫 (以下、山腰)

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



執行役員 技術研究所所長
執行役員 社長室次長

石原 誠一郎（以下、石原）
八木 良道（以下、八木）

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：定刻でございますので、ただ今から、株式会社浅沼組様の2022年3月期第3四半期決算説明会を開催いたします。最初に、会社様からお迎えしてございます4名の方々をご紹介申し上げます。まず、代表取締役、社長執行役員の浅沼誠様でございます。

浅沼：浅沼です。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、代表取締役、専務執行役員、社長室長の山腰守夫様でございます。

山腰：山腰です。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、執行役員、技術研究所所長の石原誠一郎様でございます。

石原：石原でございます。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、執行役員、社長室次長の八木良道様でございます。

八木：八木です。よろしくお願いいたします。

司会：本日はこのあと、浅沼社長様からご説明いただきます。ご説明終了後に質疑応答の時間を設けておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、早速よろしくどうぞお願いします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2022年3月期 第3四半期の現況



(単位：億円)

主な指標 (連結)	2021/3期			2022/3期			
	通期 実績	3Q 実績	1-3月 実績	通期 計画	3Q 実績	前期比	1-3月 見込み
受注高	1,206	835	371	1,321	721	△114	600
完成工事高	1,378	976	402	1,390	955	△21	435
完成工事 粗利益	136	97	39	136	90	△7	46
完成工事 粗利益率	9.9%	10.0%	△0.1P	9.8%	9.5%	△0.5P	0.3P
販管費	87	61	26	86	64	3	22
営業利益	53	39	14	53	28	△11	25
特別損益	7	7	0	10	0	△7	10
親会社株主に帰属する 四半期純利益	41	30	11	42	18	△12	24
配当	257円			363円			

3

浅沼：ただ今ご紹介いただきました、社長の浅沼誠です。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、弊社の2022年3月期第3四半期決算説明会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、簡単にポイントのみの説明といたしますので、ご理解のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、2022年3月期第3四半期の現況と、中期3ヵ年計画の施策の進捗についてご説明させていただきます。

まず、3ページをご覧ください。前期と今期の通期、第3四半期、1-3月の比較をしています。表の右側の今期の数値をご説明いたします。受注につきましては、コロナ感染拡大の影響もあり、1-3月にずれた案件が200億円程度あったため、第3四半期は前期比114億円減となりましたが、今期末までにそのずれた案件を取り込み計画達成につなげるつもりです。なお、選別受注を継続しており、受注時粗利益率は前々期、前期並みの8%台を確保しております。

完成工事高につきましては、資材納入の遅れ等で進捗が若干遅れ気味ではございますが、ほぼ計画どおりになる見込みです。なお、コロナ感染により工事が停止している作業所はございません。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



完成工事粗利益と完成工事粗利益率につきましては、突発的な補修費の発生等により、第3四半期は前期比7億円減、0.5ポイント減となりましたが、1-3月の追加工事等によりいずれも計画達成の見込みです。なお、資材高騰の影響は、資材の早期発注等によりほとんどございません。

営業利益につきましては、第3四半期は前期比11億円減となりましたが、今申しあげました完成工事粗利益と販管費が計画どおりとなりますので計画達成の見込みです。

四半期純利益につきましては、第3四半期は前期比12億円減となりましたが、営業利益の計画達成と1-3月の政策保有株式売却により計画達成の見込みです。配当につきましても、計画の変更はございません。

リニューアルの現況



国内 建築投資 リニューアル

(単位：億円)

	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
投資額	75,284	73,629	76,103	78,282	79,000	72,900	75,400	78,300

(一財)建設経済研究所より

国内 建築リニューアル

	2022/3期				2023/3期	2024/3期
	通期計画	3Q実績	通期見込み	計画比	計画	計画
受注高	200	124	164	△36	250	300
完成工事高	200	121	164	△36	250	300
営業利益	12.0	8.3	9.8	△2.2	14.5	17.4

目標

2024年3月期に国内のリニューアル事業の営業利益を連結営業利益の25%に

ASEAN リニューアル

	2022/3期				2023/3期	2024/3期
	通期計画	3Q実績	通期見込み	計画比	計画	計画
受注高	14	17	32	18	65	66
完成工事高	18	13	25	7	63	66
営業利益	0.5	0.1	0.5	0.0	5.6	6.3

目標

2024年3月期にASEANのリニューアル事業の営業利益を連結営業利益の10%に

4

次に、4ページをご覧ください。国内建築リニューアルの全体投資の推移と、当社の国内外の建築リニューアルの状況を掲載しております。国内建築リニューアルにつきましては、国内全体の投資の落ち込みもあり、今期は通期計画未達の見込みではございますが、受注、完成工事高、営業利益につきましては新築でカバーします。来期は新しいリニューアルブランド“ReQuality”の受注により計画達成を目指します。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ASEAN のリニューアルにつきましては、今期は計画達成の見込みであり、来期以降も新たに M&A を実施した子会社の連結化により計画達成の見込みです。2024 年 3 月期には、リニューアルの営業利益を連結営業利益の国内で 25%、ASEAN で 10% の、合わせて 35% にする計画です。

中期 3 ヶ年計画の主な施策



— 基本方針 — 浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ「変化に挑戦」

外部環境変化 への挑戦	★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により 堅調に推移する国内維持・修繕事業投資
	1. ASEAN地域におけるリニューアル事業への取り組み強化継続等 2. 『ReQuality』リニューアルブランド戦略の推進等 3. 耐震技術の拡充と免震・制振技術の高度化による防災・減災、国土強靱化 関連事業への取り組みの強化
	★ 建設分野における生産労働人口の減少
	1. ICT関連システムの活用と導入の推進 2. 協力会社との協働推進
	★ 非財務経営活動(ESG・SDGs など)による企業評価向上の機運
1. 「E」：エコフレンドリーASANUMA21の推進等 2. 「S」：『ReQuality』の一環でWELL認証の取得等 3. 「G」：政策保有株式の削減	

続きまして、5 ページをご覧ください。こちらでは、中期 3 ヶ年計画の施策を掲載しています。今期から始めました中期 3 ヶ年計画においては、外部環境変化への挑戦を掲げました。三つの外部環境変化を特定し、それに対応するための施策に取り組んでおり、その施策の中で主なものについて進捗をご説明いたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ASEAN地域におけるリニューアル事業への取り組み強化継続等

子会社取得

名 称	Evergreen Engineering & Construction Pte. Ltd.
所 在 地	シンガポール
事 業 内 容	建設工事請負業、電気・設備工事業、建物メンテナンス業
議 決 権 所 有 割 合	2022年1月 80% 株式取得 2024年4月 20% 株式取得予定
買 収 理 由	ASEAN地域におけるリニューアル事業の強化

現地法人設立

①	名 称	Thai Asanuma Holdings Co.,Ltd.
	事 業 内 容	持株会社
	設 立	2021年6月
②	名 称	Thai Asanuma Construction Co.,Ltd.
	事 業 内 容	リニューアル事業
	設 立	2021年7月
設 立 の 目 的		タイにおける老朽化高速道路・橋梁のメンテナンス事業への取り組み

6

6ページをご覧ください。ASEAN地域におけるリニューアル事業への取り組み強化継続につきましては、表の上側にありますように、ASEANにおけるリニューアル事業推進の一環としまして、新たにシンガポールのリニューアルやメンテナンス事業を行っている会社を子会社化いたしました。

また、表の下側にありますように、タイにおきまして、炭素繊維を使用し高速道路や橋梁のメンテナンスを行う新会社を設立し営業を開始いたしました。

2024年3月期に、ASEANのリニューアル事業の営業利益を連結営業利益の10%にするめどは立ちました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

『ReQuality』リニューアブルブランド戦略の推進

『ReQuality』の第1弾 名古屋支店改修PJ

- ・「より良い循環をつくる」をテーマに
自然素材（土・木）を多用した環境配慮型リニューアル
- ・新築として建て直す場合と比べ、CO2排出量を85%削減
- ・改修前に比べ、エネルギー消費量を52%削減 ZEBready認証 取得
- ・健康・快適性を基準に建物を評価するWELL認証を取得予定
(築30年のビル全体をリニューアルし、認証を受けるのは日本初)



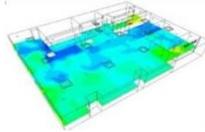
『ReQuality』の多様な独自技術



ヘルスケア空間改修



土壁構築システム



環境シミュレーション技術



環境配慮型コンクリート



地震モニタリングシステム

7

続きまして、7ページをご覧ください。こちらでは、“ReQuality”リニューアブルブランド戦略の推進についてご説明させていただきます。名古屋支店の改修においては、図の下側にありますように、“ReQuality”の「人間にも地球にもより良い循環」というコンセプトに沿った独自の技術やノウハウを導入し、特に材料として土や木といった自然素材を多用しました。

また、新築として建て直す場合と比べ、CO2 排出量 85%削減を達成しました。運用時のエネルギーにつきましては、改修前に比べエネルギー消費量を 52%削減し、ZEBready 認証を取得できました。健康・快適性を基準に建物を評価する WELL 認証は今後取得予定で、築 30 年のビル全体をリニューアルし認証を受けるのは、日本初になります。

この工事竣工後には、各建築メディアで大きな反響を呼び、雑誌、新聞等で取り上げていただきました。また、多くの見学者にも来ていただき、今後のブランディング推進のいいスタートが切れたと思っております。

サポート

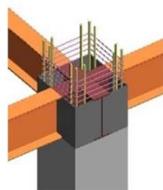
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

耐震技術の拡充と免震・制振技術の高度化

大型物流倉庫を対象とした新たな構工法&設計手法の開発

○ 柱RC梁Sハイブリッド構法の開発

- ・ S造（鉄骨造）と比較して躯体で10%程度のコストダウンが可能
- ・ 梁はS造の特性を生かすことによって大スパンの大空間が可能



柱RC梁Sハイブリッド構法の接合部ディテール

○ 制振構造を最適化するエネルギー法を用いた設計手法の開発

- ・ 制振効果の効率を高め、コストの低減が可能
- ・ 一般的な設計法にくらべ、制振ダンパーを有効に活用し優れた耐震性と経済性を両立できる新しい設計手法

地震時に作用するエネルギーを建物は揺れることで吸収する

建物が吸収できるエネルギー量 > 地震時に建物に作用するエネルギー量



○ 鉄骨造の合理化工法の開発

鉄骨造の鋼材使用量を削減できる各種工法の開発

8

続きまして、8ページをご覧ください。こちらでは、耐震技術の拡充と免震・制振技術の高度化についてご説明いたします。現在、当社が得意とする大型物流倉庫を対象とした新たな構法と設計手法の開発を進めております。主なものをご紹介します。

一つ目は、左上の図にあります、柱 RC 梁 S ハイブリッド構法の開発です。鉄骨造の特性を生かしつつ、建物本体の施工において 10%のコスト削減が可能です。

二つ目は、右上の、制振構造を最適化するエネルギー法を用いた設計手法の開発です。制振効果の効率を高めつつ、コストの低減が可能となっております。

三つ目は、左下にあります、鉄骨造の合理化工法の開発です。鉄骨造の鋼材使用量の削減が可能となるさまざまな工法の実現を行っております。

ご紹介しました技術はすでに多くの工事に導入しており、引き続きこうした技術を高度化して、それを武器に物流倉庫等の受注営業のさらなる強化を図ります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

協力会社との協働推進

建設キャリアアップシステム (CCUS) の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○建設業の魅力向上に向けて、建設技能者の処遇改善、キャリアパスの明確化、施工能力の見える化を目的としたシステム <ul style="list-style-type: none"> ・サポート事務局を2021年10月1日～2022年3月31日の間設置 ・オンライン説明会の実施（9月から12月に6回）
CI-NETシステムの導入	<ul style="list-style-type: none"> ○建設産業全体の生産性向上を図るため、様々な企業が契約や見積もり、出来高・請求業務といった情報をネットワークを利用してやり取り出来るシステム (CI-NET) の導入を進めています。
作業所生産性向上策表彰及び発表会開催	<ul style="list-style-type: none"> ○各作業所における協力会社との協働による生産性向上策を募集、表彰、発表会開催（2021年10月29日） （コスト削減、工期短縮、新技術導入など）

ICT関連システムの活用と導入の推進

DX推進委員会の設置	○施工系デジタル技術、システム導入推進のための全社的一元管理組織
------------	----------------------------------

9ページをご覧ください。表の上側の、協力会社との協働推進につきましては、昨今、作業員の高齢化に伴う人手不足が喫緊の課題となっており、現在その課題を解決するために協力会社との協働に取り組んでいますが、その中でも主なものにつきましてご説明させていただきます。

一つ目の建設キャリアアップシステム (CCUS) は、建設技能者の処遇改善を目的とした建設業界全体で推進しているシステムであり、当社においても各作業所で導入し、協力会社、建設技能者への登録の推進やサポートを行っております。

二つ目のCI-NETシステムとは、契約や見積もり、出来高・請求といった業務をネットワークを利用して効率的にやり取りできるシステムであり、その導入を進めております。当社では第一段階として、協力会社との契約書のネットワーク化を進めております。

三つ目としまして、各作業所における協力会社との協働による生産性向上策の表彰制度を2019年度から導入しており本年で3回目を迎えました。当該制度に対する応募総数は年々増え、本年は77編となりました。

表の下側の、ICT関連システムの活用と導入の推進については、DX推進委員会を設置し、施工系デジタル技術、システム導入推進のさらなる強化を図っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

非財務経営活動（ESG・SDGsなど）による企業評価向上の機運

コーポレートガバナンスの強化

サステナビリティについての取り組み

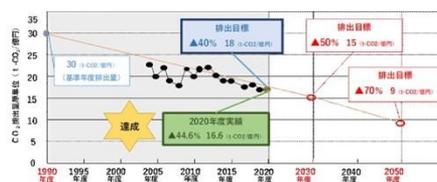
- 「サステナビリティ推進委員会」設置（2021年11月）
 - ・環境経営の推進（環境技術の導入・開発、非財務KPIの検討）

OTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動

- ・TCFD提言賛同（2021年11月）
- ・TCFDコンソーシアム参画
- ・TCFD提言に沿った気候変動関連情報の開示開始（ガバナンス、リスク管理、戦略、指標と目標）

TCFD
指標と
目標

2021年4月の「エコフレンドリーASANUMA21」の改定において、気候変動関連の中長期的目標として、「**施工高1億円当たりのCO2排出量を1990年度比で2030年度までに50%、2050年度までに70%削減**」を掲げ、事業活動における脱炭素化の取り組みを推進しています。



10ページをご覧ください。こちらでは、コーポレートガバナンスの強化についてご説明させていただきます。改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応としまして、サステナビリティについての取り組みを進めており、昨年11月にサステナビリティ推進委員会を設置いたしました。委員会では環境技術の導入・開発、非財務KPIの検討を進め、課題解決に向けた取り組みを推進しております。

また、TCFD、気候関連財務情報開示タスクフォース関連活動としては、浅沼組独自の環境への取り組みである「エコフレンドリーASANUMA21」の中長期的目標としまして、「**施工高1億円当たりのCO2排出量を、1990年度比で2030年度までに50%、2050年度までに70%削減**」を掲げ、脱炭素化の取り組みを推進しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

資金投入計画の修正

「新領域関連投資（ASEAN地域リニューアル事業拡充、コンセッション事業推進等）」の一部の投資額が確定したことを踏まえ、それ以外の、コンセッション事業推進等に伴う投資や「技術開発・ICT関連投資」も含めた全体の資金投入計画を改めて検討・見直しを行ったことにより、当初の資金投入計画を減額し、株主還元を増額。

修正前	◆ 技術開発・ICT関連投資 : 30億円 ◆ 新領域関連投資 : 50億円 計 80億円
修正後	◆ 技術開発・ICT関連投資 : 29億円 ◆ 新領域関連投資 : 34億円 計 63億円

続きまして、11ページをご覧ください。こちらでは、資金投入計画の修正についてご説明させていただきます。当社は、利益が生む資金を投資と株主還元に分けることを基本方針としております。先ほどご説明いたしましたように、ASEAN地域リニューアル事業拡充の投資額が確定したことを踏まえ、全体の資金投入計画をあらためて検討・見直しを行ったことにより、表にありますように、資金投入を当初から17億円減額の63億円とし、減額分は株主還元を増額することにいたしました。

株主還元につきましては、次のページでご説明させていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

株主還元計画の修正

1株当たり配当計画の修正

	2021年度	2022年度	2023年度
修正前	連結配当性向は50%以上を継続します。		
	260円	274円	282円
修正後	連結配当性向は 70%以上 を目指します。		
	363円	382円	395円



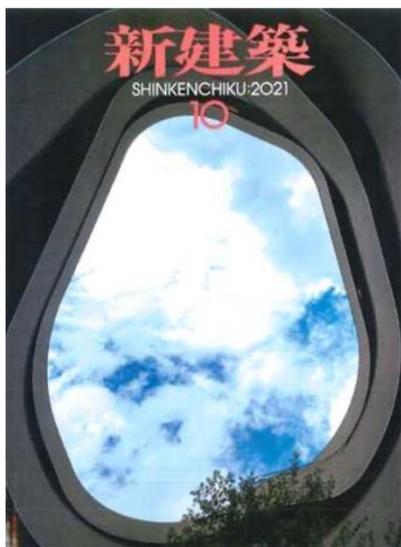
12

12 ページをご覧ください。株主還元につきましては、従来、連結配当性向を 50%以上としていましたが 70%以上に修正し、1 株当たり配当金を 2021 年度には 363 円（当初計画より 103 円増）、2022 年度には 382 円（同じく 108 円増）、2023 年度には 395 円（同じく 113 円増）といたしました。

本中期3ヵ年計画においてこの株主還元が達成できるよう、利益の確保に全役職員一丸となって邁進していく所存でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



名古屋支店改修記事掲載
新建築 2021年10月号

(その他掲載)

- ・日経アーキテクチャ 2021年11月11日号
- ・FRAU 2022年1月号 など



2021/11/11 日刊建設通信新聞社

次に 13 ページをご覧ください。こちらで最後になります。今まで申し上げました施策の取り組みを掲載した記事をご紹介します。左は“ReQuality”、リニューアルブランド戦略の推進でご説明した名古屋支店の改修について取り上げていただいた雑誌等を掲載しております。右の記事は、作業所における生産性向上策の協働についての表彰式および発表会の様子を取り上げていただいたものです。

報告はこれで以上になります。ご清聴どうもありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

司会 [M]：ご説明ありがとうございました。このあとは質疑応答の時間でございます。

それでは最初の方、お願いいたします。

ナガオカ [Q]：ストラテジックキャピタルのナガオカと申します。私から2点おうかがいさせていただけます。1点目に、今期の業績予想、進捗がこの第3四半期時点まででそこまで順調ではないのかなと見ておりまして、未達の可能性がどの程度あるのか、そして、当期純利益が業績予想を未達であった場合も予想どおりの配当をされるのかについておうかがいできますでしょうか。

山腰 [A]：先ほど社長から申し上げましたように、計画は達成する見込みです。未達ということは現時点で考えていません。以上です。

ナガオカ [Q]：ありがとうございます。2点目は、昨年末に公表され、今回の決算説明資料の12ページにも記載されております配当の水準についておうかがいできればと思います。来期以降の配当見込みについて382円、395円と記載されております。こちらがボトムラインとなってきて、当期純利益が想定を上回ればその配当が増え、当期純利益が想定を下回れば配当性向を引き上げてこの配当の水準を維持するという理解でよろしいでしょうか。

山腰 [A]：今申し上げたように、今期につきましては計画を達成する見込みです。来期、再来期についても同様に計画を達成する見込みでありまして、現時点でいずれの期も配当性向70%、金額については今おっしゃったとおりであり、それを変わるつもりもございませんし、現時点ではそのとおりにやっていくということでございます。以上です。

ナガオカ [M]：ありがとうございます。私からは以上になります。

司会 [M]：ありがとうございました。ほかにご質問いかがでございましょうか。

質問者 [Q]：2点おうかがいできればと思います。前の方の質問とかなりかぶってしまうのですが、まず1点目です。

アクティビストさんがいろいろ発信するのを受けて、御社としては中計を出したり、事業展開の方針を変えられてきているのかなという認識を持ちます。業績施策としては今回ご説明いただいたと思うのですが、この業績利益の面で目に見えて成果が出てくるのはいつぐらいからと認識しておけばよろしいのでしょうか。これが、1点目です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



山腰 [A] : 今ご説明した中で、特に業績への貢献度が私どもとして高いのは、一つ目は新しいリニューアルブランドの ReQuality があり、これについては先ほども申し上げましたように、来期から受注、完工高、利益に貢献させるつもりです。それと、この1月に M&A をしたシンガポールのリニューアル子会社につきましては、当然のことながら今月から数字に貢献しています。いずれにしましても、そういったもので先ほども申し上げましたように、来期、再来期の中期3ヵ年計画の計画値を達成するというところでございます。以上です。

質問者 [Q] : 補足でお伺いしたいです。このコロナ後の事業環境に関しては、中計を出された時期から、また状況や想定が変わっているところもあるかと思い、業界全般の見方と併せて教えていただきたいのですが、コロナ後の事業環境に関して今の時点でどう見ていらっしゃるのか、半年前とか1年前と比べて想定がどう変わっているか教えていただけないでしょうか。

山腰 [A] : コロナの影響で、私どもの会社として一番影響を受けているのは受注でございます。特にリニューアルの受注が影響を受けています。これが回復する時期はなかなか難しいところがありますが、2年間くらいは建設投資がなかなか回復しにくいのではないかと考えております。ただ、そうした中でも、これも先ほど申し上げていますように、いわゆる利益を確保した受注をすることについては曲げないつもりであります。以上です。

質問者 [Q] : 半年前とかと比べても、今の時点では見立てはそんな変わっていないということではないのですか。

山腰 [A] : はい。半年前とそれほど見立ては変わってないと思っております。

質問者 [Q] : 二つ目は、かなり前の方の質問とかぶってしまうのですが、投資の資金計画に関しては当初より20億弱下げてそれを配当原資にしていくというご説明だったかと思えます。以前と比べると、劇的に配当の水準を上げられて、もう20億半ばぐらいまでのキャッシュを配当の形で吐き出すと、1年前と比べてもキャッシュの残高というと40億ぐらい減っているのかなと思い、そろそろ、そんなにキャッシュを持ちすぎる会社でもなくなってこれたのではないかなとお見受けします。

この配当の水準に関しては、中計以降を見据えるとどれくらいが適切だとお考えになられているのか、手元に置くキャッシュの金額等を合わせて、今の時点ではどれくらいでやっていくのが一番、事業の効率としてはいいと見ていらっしゃるのか教えていただけないでしょうか。

山腰 [A] : まず、利益が生む資金を、これも先ほど申し上げているように、投資と株主還元に分けるのが基本ですが、もちろん、その前提条件として、特に競合する同業との自己資本、預

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



金水準、借入水準については少なくとも平均以上を維持するというのがあります。預金水準についても、そういった同業他社の水準を見ながら維持していきます。

現段階では、いずれも平均以上の水準だと思っておりますので、繰り返しになりますが、利益が生む資金については全額配当と投資に配分します。今回、投資につきまして17億円減らすことにいたしましたので、その基本方針に沿いまして、17億円を配当に配分する形にいたしました。以上です。

質問者 [M]：ありがとうございました。

司会 [M]：ありがとうございました。ほかにご質問いかがでございますでしょうか。

それでは、質問がないようでございますので、以上をもちまして、本日の決算説明会は終了でございます。どうも皆様、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

